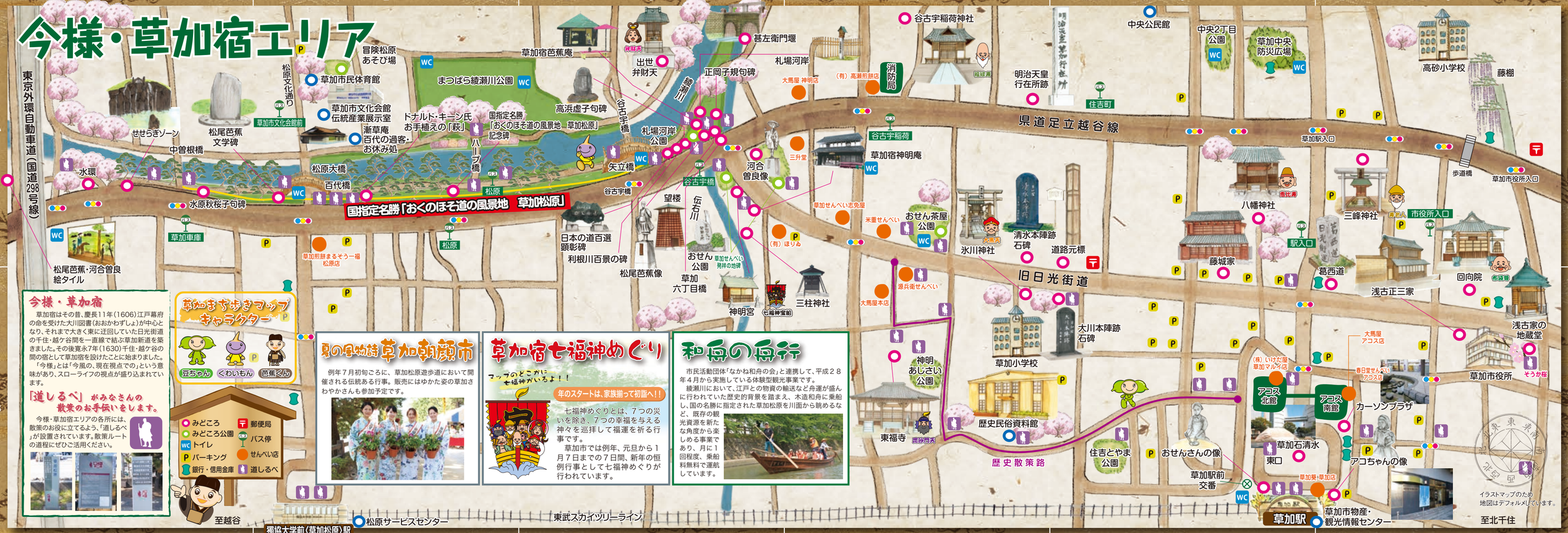
今様・草加宿エリア



今様・草加宿

草加宿はその昔、慶長11年(1606)江戸幕府の命を受けた大川図書(おおかわずしょ)が中心となり、それまで大きく東に迂回していた日光街道の千住・越ケ谷間を一直線で結ぶ草加新道を築きました。その後寛永7年(1630)千住・越ケ谷の間の宿として草加宿を設けたことに始まりました。

「今様」とは「今風の、現在視点での」という意味があり、スローライフの視点が盛り込まれています。

草加まち歩きマップ キャラクター

豆ちゃん　くわいもん　芭蕉くん

「道しるべ」がみなさんの散策のお手伝いをします。

今様・草加宿エリアの各所には、散策のお役に立てるよう、「道しるべ」が設置されています。散策ルートの道程にぜひご活用ください。

みどころ　みどころ公園　トイレ　パーキング　銀行・信用金庫　郵便局　バス停　せんべい店　道しるべ

夏の風物詩 草加朝顔市

例年７月初旬ころに、草加松原遊歩道において開催される伝統あるお祭り。販売にはゆかた姿の草加さんやゆかさんも参加予定です。

草加宿七福神めぐり

マップのどこかに七福神がいるよ！！

年のスタートは、家族揃って初詣へ！！

七福神めぐりとは、７つの災いを除き、７つの幸福を与える神々を巡拝して福運を祈る行事です。

草加市では例年、元旦から１月７日までの７日間、新年の恒例行事として七福神めぐりが行われています。

和舟の舟行

市民活動団体「なかね和舟の会」と連携して、平成２８年４月から実施している体験型観光事業です。

綾瀬川において、江戸との物資の輸送など舟運が盛んに行われていた歴史的背景を踏まえ、木造和舟に乗船し、国の名勝に指定された草加松原を川面から眺めるなど、既存の観光資源を新たな角度から楽しめる事業であり、月に１回程度、乗船料無料で運航しています。

国指定名勝

おくのほそ道の風景地 草加松原

国指定名勝へ

平成２６年３月１８日、松尾芭蕉の「おくのほそ道」に関連する10県１３件の名勝地が、後世の人々の風景観に影響を与え、今なお往時の雰囲気を伝える一連の風致景観として評価され、一群として国の名勝に指定されました。

草加松原は、「おくのほそ道」にも登場する草加宿の北側に位置し、江戸時代から日光街道の名所として知られてきました。幅周り２メートルにも及ぶ老樹を含め、今なお「おくのほそ道」の時代の雰囲気を伝える優れた風致景観であることが評価されました。

松尾芭蕉も歩いた街道

元禄２年（１６８９）３月、江戸深川を船出して千住に向かった芭蕉は、そこで見送りに来た人たちに別れを告げ、日光街道第二の宿駅・草加にたどり着きました。

「もし生きて帰らばと、定めなき頼みの末をかけ、その日やうやう草（草）加といふ宿にたどり着きにけり」『おくのほそ道』の中で最初に登場する宿が草加です。芭蕉が草加と記したのは、人々との別れを惜しみ、肩の荷の重さに苦しみながら歩いた、第１日目のだだをじしさを強調するためだったのではないかという説もあります。現在の草加松原は、芭蕉の目には、どう映るでしょうか。

古木の佇まい

現在６３４本ある松の中には、江戸時代から残る古木が６０本程度存在します。一目見てわかるその姿は、幹周り２メートルにも及ぶもの、綾瀬川に大きくせり出しているものなど様々です。古木の佇まいを楽しみながら、草加松原を歩くのも一興です。

草加松原今昔

松並木は、一説には寛永７年(1630)の綾瀬川改修のときに植えられたという。また資料上では寛政４年(1792)に１２３０本の苗木を植えた記録が初見。以後、画家や文芸家たちが多くの作品に描き残しています。その景観が60数本まで減った惨状を憂いた市民が中心となって補植し、現在では６３４本まで回復し、平成２６年３月に国の名勝に指定され過去と未来を繋ぐ遊歩道として親しまれています。

草加八景

市制 30 周年を記念して昭和 63 年(1988)に市民からの公募により選定されました。

葛西用水の桜並木

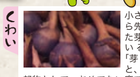
①日光街道草加松原（MAP 今様・草加宿エリア）
②音店（おとだな）河岸と下妻街道（MAP 柿木・そうか公園エリア）
③葛西用水の桜並木（久伊豆神社以南）（MAP 葛西用水エリア）
④森と牧の茶分横（北谷一丁目と小山一丁目の間）
⑤辰待川十橋（MAP 谷塚エリア）
⑥綾瀬川の桜堤（MAP 綾瀬川エリア）
⑦浅間神社境内（MAP 谷塚エリア）
⑧東福寺境内（MAP 今様・草加宿エリア）

草加の特産物

特産

草加の枝豆は昭和３０年代から本格的に栽培され始め、市内全域で盛んに生産されています。特長は「甘みのある味の良さ」です。７月上旬頃に出荷のピークを迎え、収穫は８月中旬頃までとなります。

くわい



小さな球形から先のとがった芽が伸びている姿から「芽が出る」と、昔から縁起物として、おめでたい席での料理に使用されます。独特のほろ苦さ、ホクホクした食感が持ち味で、１２月から１月にかけて出荷のピークを迎えます。

菊

草加での菊の生産は明治時代に始まったと言われ戦後には菊の生産が再開され谷塚地区、新田地区で盛んに栽培が行われていました。現在も、草加で生産される菊は品質が良く市場で高く評価されています。

小松菜

「冬菜」「雪菜」という美しい別名を持つこの野菜は、冬に収穫最盛期を迎える緑黄色野菜として人気です。早くからのハウス栽培で、一年中安定した栽培が行われています。冬場の小松菜は葉肉が厚く、あくが抜けて柔らかくなり、甘みが出ておいしさを増します。

見学・体験（うるおい工房）

※見学・体験には予約が必要ですので、各店舗にご確認ください。

●見学

- Ⓐ 球磨 (株)渡辺教具製作所 048-936-0339(稲荷3-20-14)(火10時～16時開館)
- Ⓑ 金属製品 イヌイフュージョン(株) 048-931-7399(松江2-11-1)
- Ⓒ 金属製品 ヒガノ(株) 048-931-3321(青柳3-24-7)
- Ⓓ 紙製品 森紙器(株) 048-936-9321(青柳2-11-43)
- Ⓔ 金属機械部品 (株)潤製作所 048-931-1125(青柳1-5-58)
- Ⓕ プラスチック製品 (株)草セル 048-922-2251(吉町2-5-44)
- Ⓖ 自動包装機 (株)川島製作所 048-925-1573(谷塚上町434)
- Ⓗ 襖紙 (株)菊池襖紙工場 048-925-1245(新里町1355)
- Ⓘ 精密金属加工 (株)三恵精機 048-925-5630（柳島町565-17）
- Ⓙ アクリル水槽 (株)アクアプロジェクト 048-942-3665(北谷2-7-15)

●体験

- Ⓐ せんべい (株)いけだ屋 048-922-2061(吉町4-1-40)
- Ⓑ せんべい 草加せんべい志免屋 本店 048-931-2666(神明1-11-1)
- Ⓒ せんべい・皮革 伝統産業展示室・売店「ぱりっせ」048-931-1970(松江1-1-5 草加市文化会館内)
- Ⓓ せんべい (株)一福本店 0120-037-129(青柳2-16-18)
- Ⓔ せんべい (株)山香煎餅本舗 048-941-1000(金明町790-2)
- Ⓕ 豆腐 (株)松原食品 048-936-5864(中根2-19-11)

※ このマークのお店は、<草加市うるおい工房>事業に認定されているお店です。
うるおい工房についてのお問い合せは⇒草加市産業振興課(048-922-3477)

草加の３大地場産業

草加市の名産品といえば、草加せんべいが有名ですが、長い伝統を誇るゆかた染め、高品質の皮革製品なども、歴史とともに育まれてきた地場産業です。

草加せんべい

せんべいといえば草加せんべい。こんがり焼けたうるち米１００％の生地に、しょう油の香りがたまりません。

草加せんべいは、地域団体商標に登録されており、(一財)食品産業センターの食品ブランド「本場の本物」に認定されています。

皮革

昭和初期より、草加では皮革を扱う業者が多く、原皮の扱いから染色・裁断・縫製、最終製品までの工程がすべてそろっています。扱う革の種類が豊富で、バラエティ豊かな製品を販売しています。

ゆかた染め

県の伝統的手工芸品に指定されている伝統産品。「東京本染めゆかた」のブランド名でおなじみです。注染技法により深くあざやかに染めぬかれた反物や手拭いは、飽きのこない銘品です。

これらは↓ココで買うことができます。

伝統産業展示室・売店「ぱりっせ」A-2

（でんとうさんぎょうてんじしつ・ぱりっせ/「ぱりっせ」）

草加の地場産業を見て、触れよう！

草加市文化会館１階に常設され、草加の３大地場産業であるせんべい・ゆかた染め・皮革の歴史や製造工程の展示紹介をしています。

また、地場産品の販売や、せんべいの手焼き体験、クラフト体験教室（要予約）なども行っています。

DATA
- 開 10:00～18:00　休 無料
- 休 毎月第１水曜日・年末年始
- 所 草加市松江1-1-5（草加市文化会館内）
- 交 東武スカイツリーライン 獨協大学前(草加松原)駅東口下車徒歩5分
- 問 048-931-1970

草加駅前東口広場 B-5

おせんさん

草加駅東口のアコス広場のせんべいを焼いている女性像です。

カーソンプラザ

アメリカ合衆国カリフォルニア州カーソン市との国際姉妹都市交流２５周年を記念して命名されたイベント広場です。

草加の街の見どころをご紹介 旧日光街道と草加宿

草加宿は、千住から２里８町、かつては東北地方の諸大名が参勤交代で往来し、松尾芭蕉が通った道でもあります。歴史を感じながらのウオーキングはいかがでしょうか。

東福寺（とうふくじ）B-4

「松寿山不動院東福寺」

草加宿の開宿に尽力した大川図書（おおかわずしょ）が、慶長11年(1606)に創建。僧賢宥が開山と伝えられています。本堂・山門・鐘楼とも江戸後期の建造物で、本堂内外陣境の彫刻欄間・山門と鐘楼は市の指定文化財です。

浅古家の地蔵堂（あさこけのじぞうどう）B-6

江戸時代の豪商・浅古氏が赤堀用水を流れてきた地蔵を拾い上げ、子育て地蔵として祀ったものと言い伝えがあります。堂の開帳は、１２月を除き毎月２４日となっています。

藤城家（ふじしろけ）B-5

明治期の建物で、耐震建築として貴重な建物です。平成２５年６月２１日に国の登録有形文化財に登録されました。

河合曾良像（かわいそらぞう）A-3

市制５０周年を記念して、おせん公園に建立されました。河合曾良は奥の細道の旅に随行した芭蕉の門人です。

草加宿神明庵（そうかしゅくしんめいあん）A-3

古民家を改修し、平成２３年７月にオープンしたお休み処。市民ボランティアが運営し、観光案内や湯茶のおもてなしを行っています。２階はギャラリー。

11:00～16:00　月曜定休(祝日の場合は翌日)

おせん茶屋公園（おせんちゃやこうえん）A-4

旧日光街道に面し、復権の雰囲気をイメージした公園です。かつてこの場所には草加町役場などがありました。

草加宿芭蕉庵（そうかしゅくばしょうあん）A-3

埼玉県産のスギやヒノキを使用した休憩舎を改修し、平成３０年５月１６日にオープンしたお休み処です。草加せんべいなどの地場産品の販売や、ボランティアの方による観光案内などを行っています。10:30～15:30　月曜定休(祝日の場合は翌日)

おせん公園 A-3

神明宮の東にある公園です。せんべいに見立てた自然石「草加せんべい発祥の地碑」が建っており、市民の憩いの広場となっています。

神明宮（しんめいぐう）A-3

「草加町見開史」によれば、元和初年(1615)に宅地内に神体を祀ったのが始まりで、正徳3年(1713)に葛西9ヶ村の希望により宿の総鎮守として現在の地に移されたと伝えられています。

八幡神社（はちまんじんじゃ）A-5

「草加町見開史」によれば、享保年間(1716～36年)に稲荷社を祀ったのが始まりで、安永6年(1777)に木造八幡神像を祀ったことより現在の神社名になったと伝えられています。

回向院（えこういん）B-6

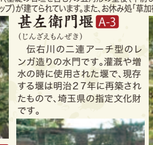
草加山観音寺と称する浄土宗の寺院です。本堂には阿弥陀三尊、善導大師、法然上人が祀られています。また、本堂外陣には不動明王、香龍上人が祀られています。

札場河岸公園（ふだばかしこうえん）A-3

草加松原南端にある、かつての「河岸」の面影を今に再現する公園です。国内にはかつて札場河岸公園の眼わった舟運の河岸場が復元されているほか、高さ12.5m（基礎の石垣を含む）の五角形の望楼（午前９時から午後５時までは内部を開放、午後７時から午後１０時まではライトアップ）が建てられています。また、おせん処「草加宿芭蕉庵」も設置されています。

松尾芭蕉翁像（まつおばしょうおうぞう）A-3

奥の細道旅立ち３００年を記念して建立されました。像は右手に杖を持ち、笠をかけ、友人や門弟たちとの別れを惜しむかのように、千住方面を振り返る「見送りの姿」です。



甚左衛門堰（じんざえもんせき）A-3

伝右川の二連アーチ型のレンガ造りの水門です。灌漑や増水の時に使用された堰で、現存する堰は明治２７年に再築されたもので、埼玉県の指定文化財です。

正岡子規句碑（まさおかしきくひ）A-3

「梅を見て野を見て行き改草加まで」

草加松原【国指定名勝】（そうかまつばら）A-1～3

草加松原遊歩道（そうかまつばらゆうほどう）A-1～3

草加六丁目橋付近から約1.5Kmの旧日光街道沿いの六百本を超える松並木は、江戸時代から「千本松原」と呼ばれ、街道の名所となっていました。平成26年3月18日には、国指定名勝「おくのほそ道の風景地　草加松原」に指定されました。遊歩道には石畳が敷かれ、市民の憩いの場となっています。

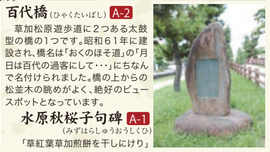
百代橋（ひゃくだいばし）A-2

草加松原遊歩道に２つある太鼓型の橋の１つです。昭和６１年に建設され、橋名は「おくのほそ道」の「月日は百代の過客にして・・・」にちなんで名付けられました。橋の上からの松並木の眺めがよく、絶好のビュースポットとなっています。

水原秋桜子句碑 A-1

（みずはらしゅうおうしくひ）

「草虹葉草加煎餅を干しにけり」



矢立橋（やたてばし）A-3

草加松原遊歩道に２つある太鼓型の橋の１つです。平成６年に建設され、橋名は「おくのほそ道」の「行く春や鳥啼き魚の目は泪、これを矢立の初めとして・・・」にちなんで名付けられました。

漸草庵 百代の過客（ぜんそうあん はくたいのかかく）A-2

日本文学研究者のドナルド・キーン氏から命名・揮毫いただいた木造平屋建ての数奇屋建築。茶道・華道・琴・三味線など、草加の和の文化を発信するための施設です。

なお、問題設内には、市内外から訪れた方のためのお休み処もあり、有料で昼食サービスも行っています。

【申し込み・問い合わせ】
草加市文化会館
- 電 048-931-9325
- 開 10:00～16:00（お休み処）9:00～21:30（貸館「菊の間、松の間、桜の間、小間」）
- 休 第１水曜日、年末年始

そうかのガイドは「草加宿案内人の会」におまかせください

街中を歩くと、かつての宿場の雰囲気を感じさせる商家と白壁土蔵が残われ、寺院には文人墨客たちを偲ぶ碑も多く、札場河岸公園は松尾芭蕉像に始まる文化と文芸の表現舞台でもあります。数百年の年輪を刻む松原の古松たちは、往来人の喜怒哀楽の表情を語ってくれます。

この魅力と松原の風色を来訪者に紹介するのが、私たちの仕事と思い、グループの希望に合わせてコースを設定しております。

案内は原則5人以上のグループで。事前に申し込みが必要です。　B-6

【申し込み・問い合わせ】
草加市物産・観光情報センター
- 電 048-921-1800
- 開 10:30～19:30
- 休 年末年始

草加市物産・観光情報センター B-6

（そうかしぶっさん・かんこうじょうほうせんたー）

草加の観光情報発信拠点！

市内の商工業と観光情報発信のための情報ステーションです。市内の地場産業品、物産関連のイベントや展示会等が行われる「多目的スペース」、観光情報を紹介する「観光コーナー」などのほか、ボランティアガイド（草加宿案内人の会）の紹介、取り次ぎも行っています。

DATA
- 開 10:30～19:30
- 休 年末年始
- 所 草加市水川町1978
- 交 東武スカイツリーライン 草加駅西口下車0分
- 電 048-921-1800
- HP http://sokabkjc.co.jp/

歴史民俗資料館（れきしみんぞくしりょうかん）B-4

国の登録有形文化財

昭和58年、県内初の鉄筋コンクリート造りの草加小学校西校舎を改修しオープンしました。２つの展示室と２つの収蔵庫、多目的のルームがあります。土器、せんべいの製造具、民俗資料など郷土の歴史資料や民俗資料が約1,600点収蔵され、そのうち約150点が常設展示されています。

DATA
- 開 9:00～16:30
- 休 月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始
- 所 草加市住吉1-11-29
- 交 東武スカイツリーライン 草加駅東口下車徒歩10分
- 電 048-922-0402